

# 環境経営レポート 2024

(対象期間:2023年度⇒2023年11月～2024年10月)

発行2024年12月12日

## SANSHIN

production of the precision parts



®環境省

エコアクション21

認証番号0000568

三鎮工業株式会社

# 目 次

【1】 会社の概要	1ページ
【2】 環境経営方針	2ページ
【3】 環境経営目標と実績	3ページ
【4】 環境経営計画とその取組結果と評価	4ページ
【5】 代表者による全体評価と見直しの結果	8ページ
【6】 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	9ページ
【7】 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10ページ





# 【1】会社の概要

## (1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ カブシキカイシャ

三鎮工業株式会社

代表取締役社長 ヤマダ ヒロシ  
山田 浩司

## (2) 事業所住所

本社 〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10

第二工場 〒205-0002 東京都羽村市栄町3-3-5 (2022年11月設置)

## (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役社長	山田 浩司
担当者	環境管理責任者	山田 浩司 (兼任)
連絡先	電話番号	042-513-0718 (本社)
	FAX番号	042-513-0719 (本社)
	E-mail	info@sanshin-i.com
	ホームページURL	https://sanshin-i.com
	facebook	https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

## (4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ  
デジカメ、モーター等に用いられる精密金属部品の挽物加工

## (5) 事業の規模

2024年10月決算	本社工場	第二工場	合計
従業員数	36名	7名	43名
敷地面積	1,652.90㎡	1,883.25㎡	3,536.15㎡
建物面積	1,760.53㎡	2,149.88㎡	3,910.41㎡
売上額(税抜)	1,319百万円	248百万円	1,567百万円
製品売上高	959百万円	217百万円	1,176百万円
切粉売上高	347百万円	29百万円	376百万円

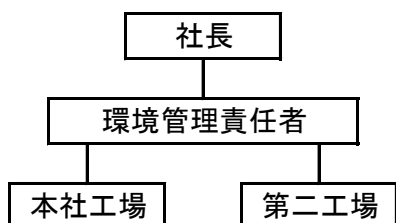
※その他、材料・商品売上で15百万円

## (6) 認証・登録の範囲

全社 (本社工場・第二工場)  
全活動 (金属機械加工)



## (7) 環境実施体制



## 【2】環境経営方針

### 環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。


### 行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。
2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。
3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定 2006年1月16日

改訂 2019年1月25日

代表取締役社長

山田浩司 

# 【3】環境経営目標と実績 (2023年11月～2024年10月の月平均値)

◎ 目標達成 ○ 詳細項目を最低1つは達成 × 目標未達成  
→詳細は【6】参照

● 2017年度版ガイドラインに則った取りまとめ表にて算出した数値を基に、環境経営目標を設定している。

全社	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	2022年度の月平均 148.71	目標値-14.4%★ 127.23	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2022年度の月平均 1,145.42	目標値-8.2% 1,051.35	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-1% 5.39	目標値+5.2% 5.72	○
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	2022年度の月平均-1% 36.63	目標値-3.8% 35.25	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-5% 5.11	目標値-12.7% 4.46	◎
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	2022年度の月平均-1% 1.12	目標値+12.5[%] 1.25	×

計算根拠※ 電力の排出係数 ⇒ 本社(出光):0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh / 第二(東電):昨年度0.452 今年度0.376 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

- ◆ 二酸化炭素総排出量 : 194,995.38 kg-CO<sub>2</sub> ★東京電力の努力による排出係数低減も大きく影響している
- ◆ 購入電力総量 : 1,609,923.00 kWh
- ◆ 廃棄物総排出量(有価物以外) : 8,587.20 kg (一般廃棄物:4,414.20 kg / 産業廃棄物:4,173.00 kg)
- ◆ 水の総使用量 : 423 m<sup>3</sup>
- ◆ 化学物質総使用量 : 7,000 kg
- ◆ 原単位で使用する売上高は、製品+切粉売上のみ : 1,552百万円  
⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

● 上記の全社目標を達成するため、本社工場及び第二工場目標値を次のように設定した。

本社工場	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	2022年度の月平均-1% 10.18	目標値-23.7% 7.77	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2022年度の月平均-1% 946.5	目標値-8.8% 863.29	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-1% 5.19	目標値+1.6% 5.27	○
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	2022年度の月平均-1% 29.37	目標値-7.8% 27.08	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-5% 4.53	目標値+1.1% 4.58	○
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	2022年度の月平均-0.5% 1.07	目標値+36.4[%] 1.46	×

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO<sub>2</sub>/kWh(出光興産株のプレミアムグリーンプラス)

第二工場	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	2022年度の月平均 1,177.61	目標値-28.3% 843.85	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2022年度の月平均 2,603.01	目標値-13.9% 2,240.42	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-1% 6.92	目標値+32.2% 9.15	○
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	2022年度の月平均-1% 7.26	目標値+12.5% 8.17	○
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	2022年度の月平均-5% 10.18	目標値-64.6% 3.61	◎
5	製品及びサービスの向上 不適合品比率[%]	2022年度の月平均-0.13% 1.40	目標値-50.7[%] 0.69	◎

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.376kg-CO<sub>2</sub>/kWh(東京電力エネルギーパートナー株)



特に第二工場での乖離が大きいですが、次の特殊事情がある。  
 第二工場は一昨年度(2021年度)、完成前の増改築中の建屋の傍らにスペースを取り、機械加工(18基)のみの仮操業からスタートし、実際に建物の引き渡しを受けたのは2022年10月末日。それ以降、昨年度(2022年度)に12基、今年度(2023年度)に3基と毎年度機械台数を増やしている。しかし受注は予想より緩やかな伸びとなっており、各月の機械稼働率、売上等の数値が安定せず、単位量当たりの数値も月々大きく変動してしまう。結果、期中では是正を掛けずに様子を見ている状況となっている。

## 【4】環境経営計画とその取組結果と評価

(2023年11月～2024年10月)

### 1(1)、二酸化炭素排出量の削減

#### ◎ エコドライブ・安全運転

食堂に個人目標を掲げ、社用車を利用する人にはエコドライブ・安全運転を実施してもらった。

#### ◎ 冬以外の給湯器オフ活動

昨年夏に、ガス業者に教えて頂いた『給湯器のリモコン電源OFF』を各工場継続実施。

特に本社での効果が絶大であった。1F工場の手洗い場はその場にリモコン電源があるため、冬でも基本オフ設定とし、お湯で手を洗いたい場合にのみ本人がオンにするシステムとした。2Fは基本常にオフ。その結果、1ヶ月の請求最小量を下回るようで、1年を通じて2ヶ月に1回の請求となり、1年間の総量で見ると、93.6%の削減に成功した。

第二工場は電源リモコンが1つしかなく、本社の様に細かくオンオフが出来ないため、夏場のみオフを継続。その結果、昨年度同様7月～10月の4ヶ月0㎡を達成。6月も0.3㎡であり、ほぼ0㎡となっている。さらに、第二工場は昨年12月からの開通であるため、昨年度と同じ12月～10月の11ヶ月と比較してみると、使用量は24.5㎡→24.0㎡と、削減に成功している。また、第二工場では現在ガスコンロの使用が無い為、元栓を閉めて少しでも削減に繋げている。

**評価** ガソリンとガスに関しては、久しぶりに大幅削減に成功した。昨年、ガス業者に使用量の削減方法を問い合わせたことが、今年度の結果につながっている。  
 電力による二酸化炭素排出量については、1(2)に記載する。

年間二酸化炭素排出量[kg-CO<sub>2</sub>]

	2021年度	2022年度	2023年度	昨年度比
ガソリン	11,451.32	11,399.96	9,835.64	-13.7%
本社 ガス	206.79	281.31	18.06	-93.6%
第二 ガス	0.00	152.15	163.98	+7.8%
総排出量	11,658.11	11,833.42	10,017.68	-15.3%
売上※	1,655.63	1,300.55	1,553.35	+19.4%

※ 製品売上+切粉売上 ※単位:百万円

### 1(2)、購入電力の削減

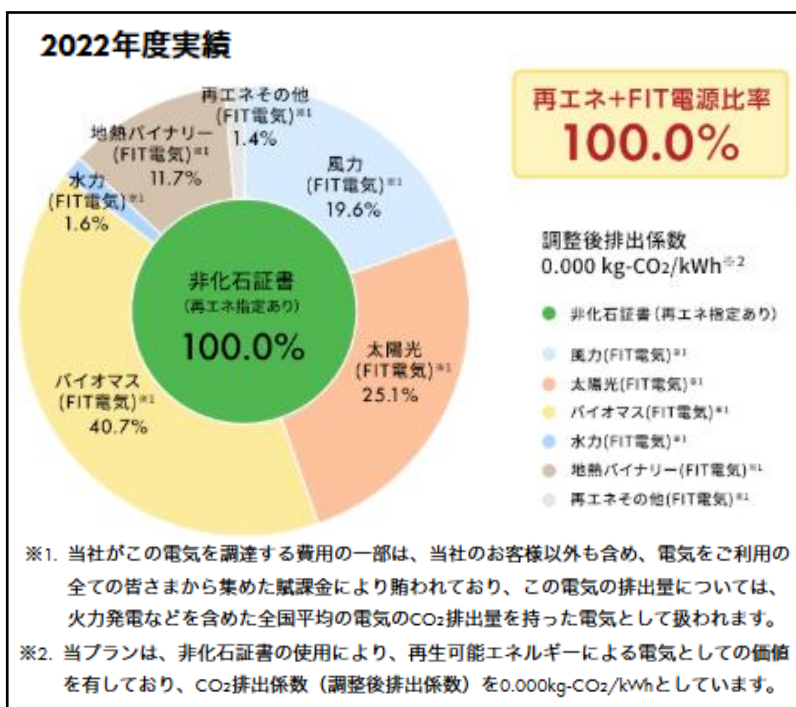
※ 本社工場は出光興産(株)のプレミアムゼロプラン(旧プレミアムグリーンパワー)を継続利用しているため、再生エネルギーを活用した電気(右下図参照)を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量 0 kg-CO<sub>2</sub> を実現している。ただし、電力のムダ遣いを抑制するために、購入電力の管理を実施している。

※ 第二工場は立ち上げ当初、プレミアムグリーンパワーが新規契約中止としていたため、東京電力エナジーパートナー(排出係数:0.376 kg-CO<sub>2</sub>/kWh)との契約。

#### ○ デマンド監視装置による節電

これは本社のみでの取り組みであるが、今年の猛暑ではデマンドが鳴り続けてしまったため、9月に215kWから235kWに設定を上げた。ただ、昨年は8月に最大需要電力226を記録したのに対し、今年9月の223kWが最大であり、デマンド監視装置のおかげで何とか基本料金が高くならずに切り抜けることができたと感じている。

来期はさらに受注が増加する見込みとなっており、機械稼働率が高まってくるため、単位量当たりの目標値をクリアできるように継続して取り組んでいく。



◎ 営業日の調整(機械稼働予定表・土日出勤・営業回り日 等)

2018年以降、業務部が中心となって生産管理システムや稼働予定表を用いて、無駄な出勤等の削減に取り組んできたが、今年度からはさらにそこに営業部長、製造部長も加わり、機械稼働予定表のブラッシュアップを進めてきた。昨年度までは過剰に機械を動かしてしまい余剰在庫を抱えてしまう…といった状況が度々見られたが、今年度は、営業部長が中心となって受注の見込み情報を早めに収集し、それを踏まえて製造部長と業務部がタッグを組んで加工機や加工数量、加工日数を決定することで、さらに無駄の無い生産計画が立てられるようになってきた。

その結果として、売上がV字回復となっても残業や休日出勤が同じように増えてしまうことがなく、従業員が私生活も楽しみつつ、仕事に取り組める環境が出来てきている。

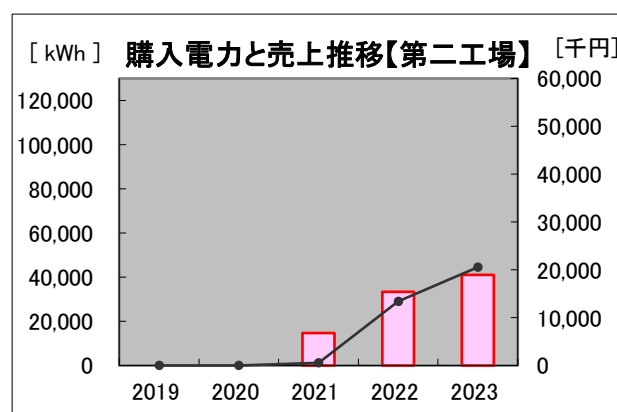
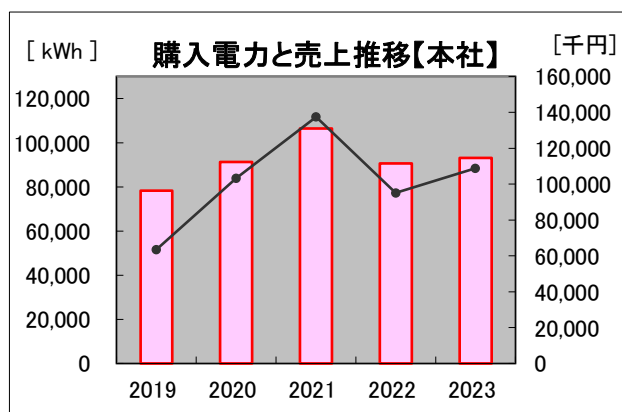
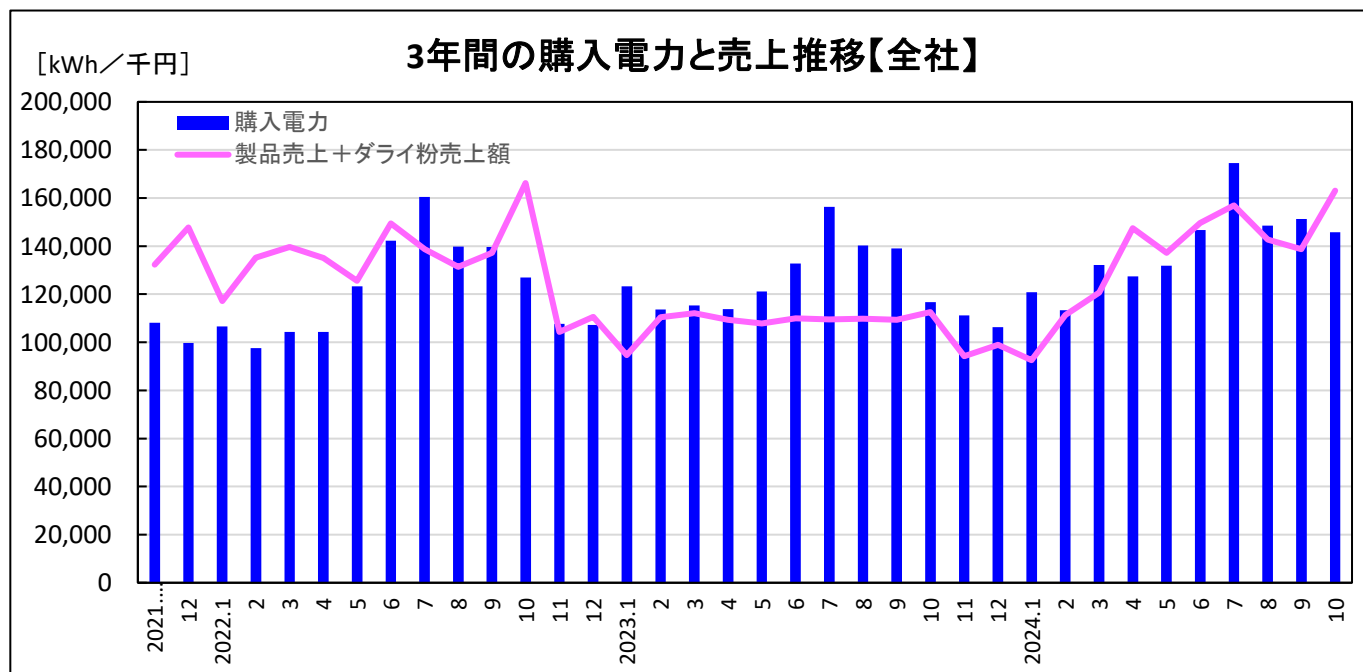
○ エアコンの設定温度の順守

本社はGW前に改築し、作業エリアが広がり照度も向上したが、西日エリアが増えたことによる夏場の室温上昇が懸念された。しかし、2022年10月に2階の空調機器の配置を見直し、さらに省エネで、かつ効率の良いエアコンに一新したことが功を奏し、ほぼ規定通りの温度設定でやり過ごすことができた。

第二工場は本社より余裕を持った温度設定としていたが、1Fは機械台数が増えたことによる室温上昇が見られたため、設定温度を1℃見直した。また、去年は人があまり通らない階段まで「少しでも快適に…」と扇風機を回していたが、今年はエコを重視してやめることとした。

**評価** 当社の特徴として、工場に機械が目一杯設置され稼働している状態であれば、購入電力と売上(製品+ドライ粉)額はほぼ連動する。下のグラフに示すように、一昨年度、昨年度と第二工場の立ち上げや受注低迷が重なり、この連動の様子が見られなかったが、今年度はかなり良い形に戻りつつある。機械稼働率が低いにも関わらず、良いグラフになっているのは、生産管理による機械稼働の調整や、営業日の調整が上手くいっていることが大きく関与していると考えられる。結果として、目標値もしっかりとクリアした。

生産管理や機械稼働予定表については、ブラッシュアップの余地がありそうなので、より良いものを目指し取り組んでいくが、来年度も第二工場に機械を増設する予定があり、本当の意味で完全に安定するまでは、あと1~2年の期間が必要だと考えている。





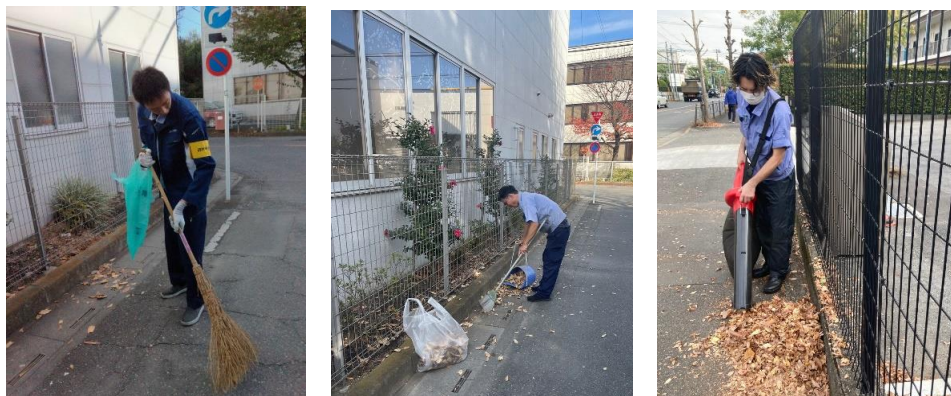
## 2. 廃棄物等排出量の削減

### ○ ゴミの分別の徹底

本社においては、分別を担当している業務部に対し分別方法の再教育を実施。分別のスペシャリストが第二工場へ異動して以来、廃棄場所がゴチャついていたので、早い段階で整理整頓を行い、維持するよう心掛けている。

第二工場においては、皆がきれい好きなこともあり、常に分別、常に整理整頓が行き渡っていて非常に効率の良い作業環境が出来上がっている。特に製造部は、本社から1名ずつ研修に行こうと考えているが、今期は実現できなかった。

また、本社・第二工場ともボランティア活動として、定期的に落ち葉や公道のゴミ拾いも実施している。



### ◎ ウエスの使用枚数の抑制

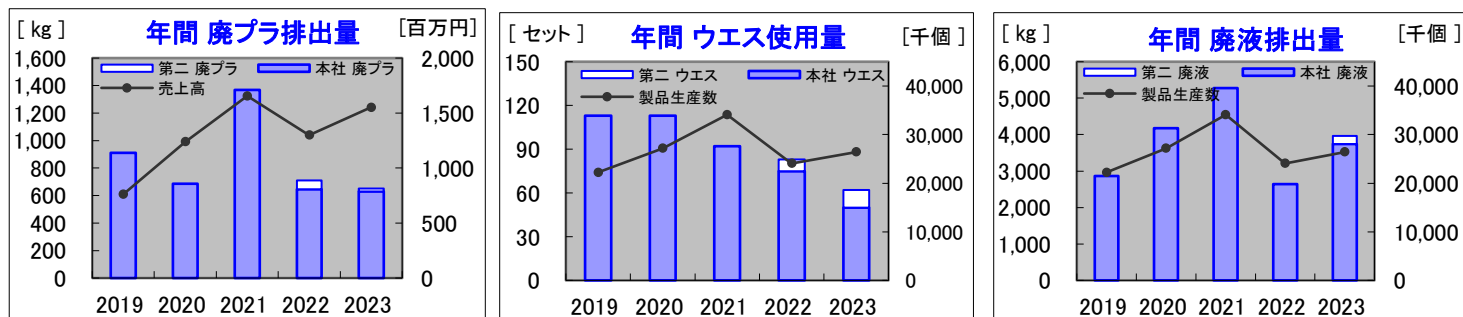
本社は昨年、製品生産数の減少に合わせ、ウエスの1回の納品数を4セットから3セットに見直したが、さらに減らせようだという声が上がりが、今期2月以降は2セットに減らした結果、3年間で92→75→50セットと大幅に削減が進んだ。

第二工場においては、製品生産数が増えてきているが、最低セットの1セットのみで間に合っている

### × 廃液の削減

両工場とも洗浄液の交換のタイミング等が決められ、キチンと実行している。その結果、本社は製品生産数の増加に伴い増加し、第二工場では開設以来初めて廃液の回収が開始されたため、単純に廃液量が増加した。

来期以降も、決められたルールに則って洗浄液を使用することで、単用量当たりの廃液量が削減できるよう努めていく。



評価 上グラフは廃プラ、ウエス、廃液の年間総排出量と製品生産数または売上高（製品＋切粉売上高）を表している。廃プラ、ウエスは削減に成功しているが、廃液が生産数増加に合わせて増加し、結果として、本社・第二工場・全社とも売上百万円当たりの目標値を達成できなかった。

## 3. 水の使用量の削減

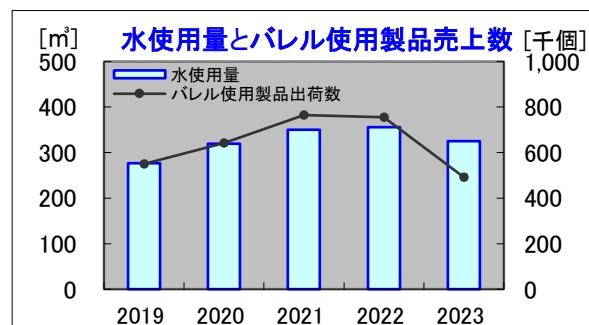
### ◎ 個人目標の設定・掲示／達成度確認

今年度も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。

### ○ 製造工程(バレル作業)での使用水のムダ防止

バレル作業は本社工場のみのため、右のグラフは本社工場の水使用量となっている。

バレル使用製品出荷数だけを見れば35%少なくなっているものの、対象製品に変化があり、今年度対象となった製品は一度にバレルを掛けられる量が少なく、バレル使用回数自体にはそれほど変化が無かった。

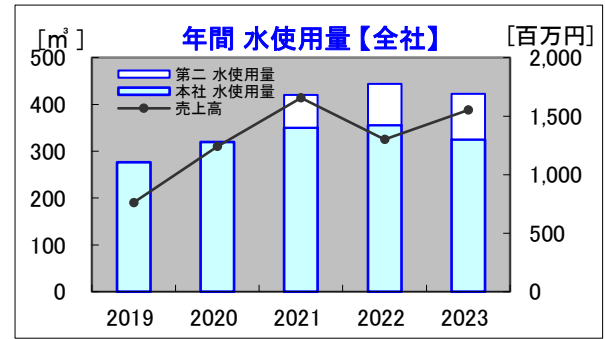




**評価** 第二工場の水使用量も落ち着いてきたように感じられ、こうなった場合には、目標を単位量当たりの数値にしてしまうと、売上が増えれば達成、減れば未達成となってしまう、あまり意味をなさない目標となってしまう。そのため、あえて期中に目標を実績値に切り替えて取り組んだ。

第二工場では、人数の割に水の使用量が多い原因を探っていたところ、男子小便器が定期的に自動洗浄をしていることが分かった。そこで、取扱説明書を読んでみたが、自動洗浄の間隔を長くすることは出来ず、現状の男子小便器の使用回数を考慮し、今回は自動洗浄をオフにしない選択をした。

第二工場単体で見ると、人数の増加に合わせて増加傾向にあるが、全社として削減目標を達成した。



#### 4. 化学物質使用量の削減

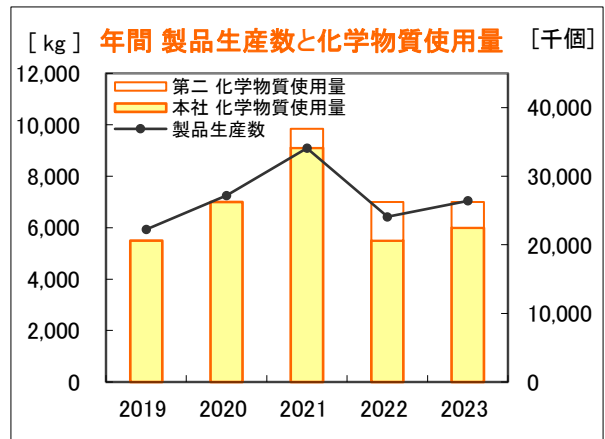
◎ 使用時以外は洗浄機の電源をおとす(蒸発抑制)

両工場とも電源をオフにすることは徹底されていた。

◎ 廃液を蒸留し再利用する

両工場とも廃液を蒸留し、再利用していた。

**評価** 上記2点以外にも日々の点検表を用いてチェックすることで、人的ミスを防止し、漏洩等で無駄が出ないような対応となっている。そのため、化学物質使用量と製品生産数が連動して良い形のグラフとなり、単位量当たりの目標も達成した。



#### 5. 製品及びサービス向上 (不適合品比率を抑える)

× 赤紙枚数を150件/年以下にする

昨年度、製造由来の赤紙が240件/年だったため、150件以下を目標としたが、結果は259件であり、昨年度比+19件(+8%)となってしまった。原因分析を行い、来年度の取り組み内容に反映させる。

× 段取り品合格後4ロット目までの赤紙を全体の20%以下にする

昨年度、赤紙全体のうち36%が段取り合格後4ロット以内であったため計画したが、やはり最初の4ヶ月で初回品NGが33件も発生(全体の46%)。品質会議資料をもとに製造部朝礼にて情報共有・注意喚起を実施したところ、立ち上げ直後の管理不備によるNGは削減傾向となったが、4ロット目までとなると114件/年となり、全体の44%となってしまった。製造部員のレベル底上げを狙い、歴の短い社員にもドンドン仕事を任せるようにしたが、部長やリーダーによるレビュー(刃物選定や加工プログラム)の強化が必要だと感じた。

× 不良率90%超ロット40件/年以下にする

昨年度83件。品証の初回品出荷検査の対応が早くなり、不良の拡大が抑えられている印象はあるが、年間で47件発生してしまった。昨年度より大きく改善したが、未達成。来年度は、今年度に異常が多かった製品に的を絞って点検を強化していく。また、新規品でのミスは廃棄金額が大きいため、立ち上げの際に起こりうる問題を網羅的に検討し、加工担当者へ伝達することで改善を図る。

	2022年度			2023年度		
	本社工場	第二工場	全社	本社工場	第二工場	全社
不良数	229,913	91,767	321,680	284,728	48,493	333,221
製作数	20,440,482	5,979,648	26,420,130	19,551,499	7,035,718	26,587,217
不適合品比率	1.12%	1.53%	1.22%	1.46%	0.69%	1.25%

**評価** 赤紙の多さ(不適合品比率)は、会社にも、環境にも良くないことであり、優先して改善すべき内容である。これは製造部だけでなく、品質保証部とタッグを組み、ポイントを絞って対応していく。そして、来年度こそ不適合品比率を低減させ、0.6%以下/年という大きな目標を掲げてチャレンジする。

## 【5】 代表者による全体評価と見直しの結果

昨年度は、予想以上に中国のロックダウンの影響が長引き、受注が低迷した1年であったが、今年度は無事に回復の兆しが見え、売上もV字回復となった。しかし、まだ1年を平均した機械稼働率は本社で55%（昨年度は57%）、第二工場で34%（昨年度31%）にとどまっている。（※ただし、第二工場については期中で機械が3基増えているため、稼働機械数は少し増加している。）これは余力がまだまだあるというプラス面が大きく、今後も受注は増えていく見込みとなっているので、この流れを掴めるように取り組んでいる。

また、売上高に対して機械稼働率が低い理由として、機械稼働表を用いた生産管理が軌道に乗り始めたことが大きい。過剰在庫の低減、無駄な残業や休日出勤の抑制に効果が表れている。

そこで、次は不適合品比率の低減に向け、大きく舵を取っていく。

環境経営計画の取組結果の評価を見ても、もう万策尽きたと諦めることなく取り組んでいる従業員の力は素晴らしいと感じている。ガソリンとガスによる二酸化炭素の排出量の削減に関しては、久しぶりに大幅削減となった。昨年ガス業者に使用量の削減方法を問い合わせたように、社内では策が出尽くしてしまっているが、外部の声を聴くことで新たな視点からの削減ができることを実感した。他の内容でも、同様にして削減に取り組んでもらいたい。

もちろん、エコアクション21認定取得した当初から続けている『個人目標の掲示』も続けてもらいたい。毎年新しい目標を設定する前に、昨年度の目標に対しどうであったかを振り返り、自己評価してもらうことで、従業員の高いエコ意識を保持して欲しい。

# 【6】次年度の環境経営目標及び取組内容

## 《環境経営目標（全社）》（2024年11月～2025年10月の月平均値）

	項目	2023年度実績	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	127.23	125.96	124.7	123.45
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,051.35	1,040.84	1,030.43	1,020.13
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5.72	6.00	5.94	5.88
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	35.25	37.08	37.08	37.08
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.46	4.42	4.38	4.34
5	不適合品比率[%]	1.25	0.60	0.55	0.50

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 本社:0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh , 第二工場:0.376 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

- ・ 1(1)(2)と4については、実績値と売上が連動し始めたので、単位量当たりの値で削減目標を立てた。
- ・ 2は、次年度第二工場で増加が見込まれているため、それを基に試算をした。
- ・ 3は、第二工場の2名増員が確定しているため、それを基に算出。

● 上記の全社目標を達成するため、本社工場及び第二工場の目標値を次のように設定した。

本社工場	項目	2023年度実績	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	7.77	7.69	7.61	7.53
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	863.29	854.66	846.11	837.65
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	5.27	5.27	5.22	5.17
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	27.08	27.08	27.08	27.08
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	4.58	4.53	4.66	4.62
5	不適合品比率[%]	1.46	0.60	0.55	0.50

※ 購入電力の排出係数 ⇒ プレミアムグリーンパワー(株):0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

第二工場	項目	2023年度実績	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	843.85	835.41	827.06	818.79
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	2,240.42	2,218.02	2,195.84	2,173.88
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	9.15	11.00	10.89	10.78
3	水の使用量の削減 [m <sup>3</sup> ]	8.17	10.00	10.00	10.00
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	3.61	3.75	3.71	3.67
5	不適合品比率[%]	0.69	0.60	0.55	0.50

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 東京電力エナジーパートナー(株):0.376 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

## 《取組内容》

1～4の項目については、個人目標の達成に向けて1人ひとりが行う小さな努力の積み重ねと、決められたルールを守ることによって会社としての目標達成を目指す。

また、来年度の最大の取組は5の不適合品比率削減についての取り組みである。特に製造部と品質保証部が協力して取り組むことで大きな成果が上げられると考えている。



## 【9】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

	確認項目	遵守結果
法律違反の有無	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2024年12月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2024年12月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 (騒音規制法・振動規制法)	2024年12月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例(消防法)	2024年12月現在違反無し
	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2024年12月現在違反無し
	6.特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2024年12月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	2024年12月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2024年12月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	2024年12月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令, REACH規制等)	2024年12月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2024年12月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

